



2022年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月11日

上場会社名 ピクスタ株式会社

上場取引所 東

コード番号 3416 URL <https://pixta.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古俣大介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 恩田茂穂

TEL 03-5774-2692

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績(2022年1月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	2,037	0.2	99	14.8	111	3.4	70	21.3
2021年12月期第3四半期	2,042	7.4	117		108		90	

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 72百万円 (19.9%) 2021年12月期第3四半期 90百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	31.93	31.81
2021年12月期第3四半期	39.88	39.61

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第3四半期	2,409	857	34.7
2021年12月期	2,439	887	35.7

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 834百万円 2021年12月期 870百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期		0.00		0.00	0.00
2022年12月期		0.00			
2022年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,763	1.8	150	20.6	162	39.1	105	42.7	47.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、短信添付資料の7ページ「2.(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項」の「四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注)詳細は、短信添付資料の7ページ「2.(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項」の「会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年12月期3Q	2,278,140 株	2021年12月期	2,277,740 株
-------------	-------------	-----------	-------------

期末自己株式数

2022年12月期3Q	86,510 株	2021年12月期	1,210 株
-------------	----------	-----------	---------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年12月期3Q	2,219,133 株	2021年12月期3Q	2,256,894 株
-------------	-------------	-------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

"本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、短信添付資料の3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。"

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症への対応としてワクチン接種の浸透など社会的対応が進展しておりますが、変異株の流行など警戒感が継続しております。また、不安定な国際情勢等による資源価格の高騰や急速な円安の進行等により企業を取り巻く環境は依然として先行き不透明な状況が継続しております。

当社グループを取り巻く環境としましては、スマートデバイス、スマートフォン（以下、スマホ）アプリやインターネット広告（動画広告を含む）の普及に伴い、これまで以上にインターネットでのデジタル素材の活用機会が増えております。また、近年、スマホに付属するカメラ機能の高機能化やアプリの加工技術の向上により誰もが手軽に高品質の写真撮影ができるようになり、さらに撮影したスマホ写真をソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下、SNS）に投稿・共有するスタイルが若年層を中心に定着してきました。また、ライフイベントごとの撮影機会の増加やSNSでの写真共有の増加に伴い、個人の撮影サービス市場は拡大するとともに、顧客ニーズは多様化しております。

このような状況の下で、当社グループは「才能をつなぎ、世界をポジティブにする」という企業理念の下、主にデジタル素材マーケットプレイス「PIXTA（ピクスタ）」、出張撮影プラットフォーム「fotowa（フォトワ）」、スマホ写真のマーケットプレイス・SNSビジュアルマーケティング「Snapmart（スナップマーケット）」を運営してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,037,728千円（前年同四半期比0.2%減）、営業利益は99,755千円（前年同四半期比14.8%減）、経常利益は111,953千円（前年同四半期比3.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は70,846千円（前年同四半期比21.3%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①PIXTA事業

PIXTA事業において、定額制の月間購入者数累計は、月50点ダウンロードプランの販売開始等のユーザーの利便性向上に資する取り組みが寄与し、96,233人（前年同四半期比16.6%増）となりました。一方、単品の月間購入者数累計は、オミクロン株の流行・まん延防止措置等により主要顧客（広告、印刷、旅行）の購買が鈍ったことや、Googleコアアルゴリズムのアップデートの影響でユーザーの当社サイトへの流入が減少したこと等により、98,246人（前年同四半期比14.3%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,800,478千円（前年同四半期比2.8%減）、うち定額制売上高は、954,170千円（前年同四半期比7.9%増）となりました。また、セグメント利益は、691,881千円（前年同四半期比7.0%増）となりました。

②fotowa事業

fotowa事業において、ニューボーンフォト・お宮参りジャンルが好調に推移し、累計撮影件数は16,495件（前年同四半期比43.6%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は109,078千円（前年同四半期比38.1%増）となりました。また、セグメント損失は、広告宣伝費を増加させたことにより、224,177千円（前年同四半期はセグメント損失190,853千円）となりました。

③Snapmart事業

Snapmart事業において、オンデマンド撮影は、新型コロナウイルス感染症等による顧客予算縮小によって新規案件の獲得に苦戦しており、累計売上件数が135件（前年同四半期比6.3%減）となりました。また、マーケットプレイスはオンデマンド撮影に注力する方針で経営資源の配分を抑制しており、月間購入者数累計は、7,046人（前年同四半期比11.0%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は88,822千円（前年同四半期比12.1%減）となりました。また、セグメント損失は、12,453千円（前年同四半期はセグメント利益2,334千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ30,943千円減少し、2,409,046千円となりました。

これは主に、流動資産その他が28,958千円、投資その他の資産が17,893千円増加した一方、現金及び預金が48,575千円、売掛金が21,797千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ1,419千円減少し、1,551,552千円となりました。

これは主に、契約負債（前連結会計年度は「前受金」）が147,560千円増加した一方、買掛金が20,081千円、1年内返済予定の長期借入金が20,296千円、流動負債その他が63,706千円、長期借入金が50,256千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ29,523千円減少し、857,494千円となりました。

これは主に利益剰余金が74,579千円、新株予約権が6,078千円増加した一方で、自己株式の取得に伴う自己株式の増加111,926千円により減少しております。この結果、自己資本比率は34.7%（前連結会計年度末は35.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期の連結業績予想につきましては、主にPIXTA事業の単品売上において、オミクロン株の流行・まん延防止措置等により主要顧客（広告、印刷、旅行）の購買が鈍ったことや、Googleコアアルゴリズムアップデートの影響でサイト流入が減少したこと影響により、2022年2月14日に公表した数値より修正しております。

詳細につきましては、本日（2022年11月11日）公表いたしました「2022年12月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,501,550	1,452,974
売掛金	573,174	551,376
その他	122,209	151,168
貸倒引当金	△186	△281
流動資産合計	2,196,747	2,155,238
固定資産		
有形固定資産	17,122	19,136
無形固定資産	82,001	72,659
投資その他の資産	144,118	162,011
固定資産合計	243,242	253,808
資産合計	2,439,990	2,409,046
負債の部		
流動負債		
買掛金	427,394	407,312
1年内返済予定の長期借入金	88,804	68,508
未払法人税等	29,193	34,554
前受金	545,726	-
契約負債	-	693,286
その他	341,622	277,916
流動負債合計	1,432,741	1,481,578
固定負債		
長期借入金	120,230	69,974
固定負債合計	120,230	69,974
負債合計	1,552,971	1,551,552
純資産の部		
株主資本		
資本金	325,717	325,777
資本剰余金	315,717	315,777
利益剰余金	229,240	303,819
自己株式	△479	△112,406
株主資本合計	870,195	832,968
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	366	1,992
その他の包括利益累計額合計	366	1,992
新株予約権	16,455	22,534
純資産合計	887,018	857,494
負債純資産合計	2,439,990	2,409,046

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
売上高	2,042,777	2,037,728
売上原価	753,674	696,506
売上総利益	1,289,103	1,341,222
販売費及び一般管理費	1,172,076	1,241,467
営業利益	117,026	99,755
営業外収益		
受取利息	18	36
広告料収入	71	1
受取手数料	2,321	3,443
為替差益	2,372	5,563
債務免除益	-	2,026
助成金収入	941	1,210
その他	1,114	478
営業外収益合計	6,839	12,760
営業外費用		
支払利息	974	556
本社移転費用	14,586	-
その他	0	6
営業外費用合計	15,561	562
経常利益	108,304	111,953
特別利益		
新株予約権戻入益	1,211	-
特別利益合計	1,211	-
特別損失		
海外拠点整理損	2,238	-
特別損失合計	2,238	-
税金等調整前四半期純利益	107,276	111,953
法人税等	17,275	41,106
四半期純利益	90,001	70,846
親会社株主に帰属する四半期純利益	90,001	70,846

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	90,001	70,846
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	500	1,625
その他の包括利益合計	500	1,625
四半期包括利益	90,501	72,472
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90,501	72,472
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

当社は、2022年2月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を実施し、当第3四半期連結累計期間において自己株式が111,926千円(85,300株)増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、顧客への販売におけるプリペイド及びギフトコードの利用について、従来は額面総額を収益として認識し、値引き額を販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、取引価格を有償分と無償分に区分し、プリペイド及びギフトコードの使用時に有償分に区分された取引価格を収益として認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,718千円、販管費は6,245千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,527千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は3,732千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	PIXTA	fotowa	Snapmart	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,852,219	78,973	101,003	2,032,196	10,580	2,042,777	-	2,042,777
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,852,219	78,973	101,003	2,032,196	10,580	2,042,777	-	2,042,777
セグメント利益又は 損失(△)	646,837	△190,853	2,334	458,319	△63,050	395,268	△278,242	117,026

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PIXTAオンデマンド事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	PIXTA	fotowa	Snapmart	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,800,478	109,078	88,822	1,998,378	39,350	2,037,728	-	2,037,728
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,800,478	109,078	88,822	1,998,378	39,350	2,037,728	-	2,037,728
セグメント利益又は 損失(△)	691,881	△224,177	△12,453	455,250	△65,883	389,367	△289,611	99,755

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PIXTAオンデマンド事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。